

增山守正編輯
東京名勝畫詞
上卷

增山守正編
東京名勝画詞
上下二冊
明治三十九年
五月五日發行

ル 3
3480
1



增山守正編輯

東京名勝畫詞 全冊

東京書肆

集英堂藏

雪月



門 九三
號 3480
卷 1

死

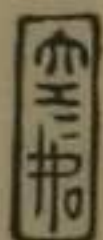
從正忠與書



早稲田大學圖書館
昭 34.3.4 受
藏 書



東京名勝畫詞序



世稱名勝者多矣而或今不及古之盛或
名則盛而其實不稱蓋地有時轉移而人之
好尚世自不同焉頃者增山子一就東京法名
勝一一為之圖每篇附以諸家題詠為書凡
二卷請余序一言且曰非求售也存古也余願
嘉其意也國家尚古勝勉乎保存子一
好言之士宜矣有斯舉也書出吾知未游

序

二

其境在清以考其勝深游焉者得以為東
道主人而彼此瀏覽之間亦自古今者之
感也此豈徒然乎哉

明治二十年一月秋溟巖崎維樵題于

蕉雨樓南軒



自敘

古人曰。詩者有聲之畫。畫者無聲之詩。然
有詩而無畫。則不能盡其景狀。有畫而無
詩。則不得盡其情況。二者不可虧其一也。
余曩編東京名勝詩集二編。以公於世。而
但其僅止詩章。未足盡其觀也。今也取東
京三十一勝。託於各畫工。以描之。更得江
湖之詩歌俳句。揭之畫傍。編成名曰東京
名勝畫詞。於是乎詩畫對照。情景俱存。亦
足以使曩所編名勝詩。無復遺憾矣。欣喜

之餘。自叙其顛末云。明治二十年一月。丹波丹蓉增山守正。撰於東京駿臺鈴木街僑居。



自叙
古人曰
自叙
自叙

東京名勝畫詞

例言

一此書ハ東京府下の三十一勝と選ひ各好手ハ乞ひて一々之を描き更ハ江湖の題詠と募て以て之ヲ附するあり
一附する所の題詠多く其地の種類氣脉ハ由て之と掲くと雖も或ハ同題トして其地ハ適せざる者無きハ非ず是れ惠送の佳什舎て録せざるハ惜むべく且つ其風致を擴めんと欲すれハなり閱者之と咎むるト勿れ
一編中の詩歌共ハ其題と刪り單ハ本章のみと登錄す是れ紙幅の便と圖るハ由るあり閱者誦讀して其題意と察しせらまんと冀望す
一凡そ卷中詩歌錯雜して之を記し其序次を正さざる者ハ記者の便宜ト由るのみ別ハ深意あるハ非ず

一 詩歌記載の序亦悉く記者の便宜に從ふ閱者必ず其先後を以て優劣視するを勿れ
 一 現在東京府下の諸家一々其本籍と寄留とを正すに違あらす故に概を以てし以て他府縣と大別す覽者之を諒せよ

編者識

例言終

東京名勝畫詞

目錄

上卷

- | | | |
|---------|-------|------|
| 墨田川 | 上野公園 | 淺草觀音 |
| 靖國神社 | 王子村稻荷 | 飛鳥山 |
| 龜井戸管公社 | 道灌山 | 茶溪 |
| 日本橋 | 芝公園 | 不忍池 |
| 三圍神社 | 愛宕山 | 泉岳寺 |
| 下卷 | | |
| 兩國橋 | 向島百花園 | 入谷村薺 |
| 大久保村躑躅花 | 團子阪菊 | 臥龍梅 |

淺草公園牡丹

日枝神社

高輪

瀧之川

目黒不動

湯島神社

富岡神社

堀切村菖蒲

神田神社

大久保村櫻草

追録

矢之倉楠公神社舊圖

東京名勝畫詞目錄終

東京名勝畫詞上卷

墨田川

丹波

增山守正

編輯

隅田川風ものよかに行ぬの

東京 松平慶永

人正歸時我正行。小舟尤好載

みづうらとよとよとよ松かけのな

全上

詩情。銀蟾亦似解吾意。故向櫻

はのあやせの風の涼しさ

全上 本居豊頼

雲堆裏橫。東京 蒲生聚亭

桑あそびてやくとみたの川あふ

全上 鈴木玄嶺

春晴。寢兒猶記去年事。先問櫻

ほのあやせの風の涼しさ

全上 浅見光風

櫻雲揺曳雨餘春。一路風柔不

香影模糊埋画檐

屋田川

すみじ川

堤のむの

まらせふ

つく

さかしの

とほく

との

東京

松平慶永

暮色微茫月一簾。
柔風半面拂吟髯。
樓南樓北苔干黠。



香影模糊埋画檐

東京 五托敬齋

今朝纔見數
杖開日午長
堤紅雪堆紅
雪堆中風不
冷煖香馥郁
襲人來。

東京 横村龍山

香七人の

群存を

留田川

むき地の

そとえぬ

丹後

牧野化成

上巻



つららかちよりゆらん橋つら
手抱橋小車一とくめで
春の川より舟の末も白らんと
芝 芳張

笑つて堤の石ふあこころきて
聖田河原の春も白らんと
全上

聖田河原の春も白らんと
花の上りよんねこそまらぬ
全上

聖田河原の春も白らんと
角田川流き流き小橋さして
全上

浮む衣衣の衣もまじし
全上

青樓霞淡柳參差琴鼓聲中紅
日斜多少酒帘風颺々襟糊花
散美人車 東京 今橋半水
解纜吾婦橋畔去流自任一
身開細風颺浪吹無絶最冷兼
酸楊柳開 西京 李家松堂

聖田川 ちんちんを橋の云淺
空く春風小流きていりりく
全上

聖田川 直上衣衣の流きさ
衣の衣ささるる源のさつ
全上

聖田川 ちんちんを橋の云淺
空く春風小流きていりりく
全上

聖田川 直上衣衣の流きさ
衣の衣ささるる源のさつ
全上

聖田川 ちんちんを橋の云淺
空く春風小流きていりりく
全上

聖田川 直上衣衣の流きさ
衣の衣ささるる源のさつ
全上

聖田川 ちんちんを橋の云淺
空く春風小流きていりりく
全上

聖田川 直上衣衣の流きさ
衣の衣ささるる源のさつ
全上

聖田川 ちんちんを橋の云淺
空く春風小流きていりりく
全上

聖田川 直上衣衣の流きさ
衣の衣ささるる源のさつ
全上

聖田川 ちんちんを橋の云淺
空く春風小流きていりりく
全上

聖田川 直上衣衣の流きさ
衣の衣ささるる源のさつ
全上

聖田川 ちんちんを橋の云淺
空く春風小流きていりりく
全上

聖田川 直上衣衣の流きさ
衣の衣ささるる源のさつ
全上

聖田川 ちんちんを橋の云淺
空く春風小流きていりりく
全上

聖田川 直上衣衣の流きさ
衣の衣ささるる源のさつ
全上

聖田川 ちんちんを橋の云淺
空く春風小流きていりりく
全上

聖田川 直上衣衣の流きさ
衣の衣ささるる源のさつ
全上

聖田川 ちんちんを橋の云淺
空く春風小流きていりりく
全上

聖田川 直上衣衣の流きさ
衣の衣ささるる源のさつ
全上

聖田川 ちんちんを橋の云淺
空く春風小流きていりりく
全上

櫻樹臨涯墨水餘春風徐動暖
烟霞長堤一望人如織纒纒輕
舟醉玉花 小坡 渚 方舟
一瓢携去踏烟霞門外春暄白
道賒酒盡吟情猶未盡長堤到
處有櫻花 全上

隄上櫻花映水新吟筵漫賞舉
杯頻暮鐘已報歡全半醉約再
遊留送春 島田篤敬
此地韶光天下魁清流一帶隔
塵埃櫻花滿日長堤上又見布
帆次第來 全上

聖田川 ちんちんを橋の云淺
空く春風小流きていりりく
全上

聖田川 直上衣衣の流きさ
衣の衣ささるる源のさつ
全上

聖田川 ちんちんを橋の云淺
空く春風小流きていりりく
全上

聖田川 直上衣衣の流きさ
衣の衣ささるる源のさつ
全上

聖田川 ちんちんを橋の云淺
空く春風小流きていりりく
全上

聖田川 直上衣衣の流きさ
衣の衣ささるる源のさつ
全上

聖田川 ちんちんを橋の云淺
空く春風小流きていりりく
全上

聖田川 直上衣衣の流きさ
衣の衣ささるる源のさつ
全上

聖田川 ちんちんを橋の云淺
空く春風小流きていりりく
全上

聖田川 直上衣衣の流きさ
衣の衣ささるる源のさつ
全上

聖田川 ちんちんを橋の云淺
空く春風小流きていりりく
全上

聖田川 直上衣衣の流きさ
衣の衣ささるる源のさつ
全上

聖田川 ちんちんを橋の云淺
空く春風小流きていりりく
全上

聖田川 直上衣衣の流きさ
衣の衣ささるる源のさつ
全上

聖田川 ちんちんを橋の云淺
空く春風小流きていりりく
全上

聖田川 直上衣衣の流きさ
衣の衣ささるる源のさつ
全上

聖田川 ちんちんを橋の云淺
空く春風小流きていりりく
全上

聖田川 直上衣衣の流きさ
衣の衣ささるる源のさつ
全上

聖田川 ちんちんを橋の云淺
空く春風小流きていりりく
全上

聖田川 直上衣衣の流きさ
衣の衣ささるる源のさつ
全上

聖田川 ちんちんを橋の云淺
空く春風小流きていりりく
全上

聖田川 直上衣衣の流きさ
衣の衣ささるる源のさつ
全上

聖田川 ちんちんを橋の云淺
空く春風小流きていりりく
全上

聖田川 直上衣衣の流きさ
衣の衣ささるる源のさつ
全上

聖田川 ちんちんを橋の云淺
空く春風小流きていりりく
全上

夕去のきして上るる河川 小橋
深き一花もまよそるるき
都ふち歸りても行通ふ
人をそみたて鳴てさよよ

宮木守親
全上

長堤十里占春魁。爛漫櫻花自
在開。好是風光須盡醉。々中歡
樂氣佳哉。 山城 安藤經次

是れくの水けあちり朝橋 東宗
花咲や 榮華の夢の枕橋 全
響琴のやうに深きく和涼船 全
暁白ふ又惜む吾の涙一り 全
暮香ぬのそふ折や 残さし 全
香もくら花や 雲向の川 全
是れくは 醉るる色を 全
涼さや 舟の心ひり 全

夕つや さくらら 全
さくらも 全
暁さや 全
暁さくらら 全
暁さくらら 全
暁さくらら 全
暁さくらら 全
暁さくらら 全
暁さくらら 全

堤上櫻花處々開。春風得
意滿天來。若斯光景無多
獲。爲賦新詩且啣杯。

十里長堤萬樹花。春風誘客滿江涯。馳車泛艇
人相簇。盡入紅雲醉物華。 山城 西川義延
塚畔紅雲淚雨收。渡頭碧水柳藏舟。賞春選趁
賞秋跡。來上去年觀月樓。 武藏 嵩 古香

枕橋越つて 船きさし 全
立まのふも 全
ぬきも 全
去るる 全
是れく 全
肩と肩 全

道向の白き 全
見返る 全
暁さくらら 全
暁さくらら 全
暁さくらら 全
暁さくらら 全
暁さくらら 全

爛々春風花綻初。遊人填咽競舟車。三
園社外浮都鳥。長命寺邊聞木魚。八百
松樓誇膾炙。問言茶店逞名譽。長程歸
路回頭處。日映櫻雲分外清。

暁さくらら 全
暁さくらら 全
暁さくらら 全
暁さくらら 全

櫻花爛漫競嬌光。扇影衣香共一塘。爛々東風如帛軟。遲々春日似年長。
蜀蓋吳膾盤堆席。北客南人酒滿觴。回首乾坤瓊玉閃。坐疑身在白雲鄉。

南谷生



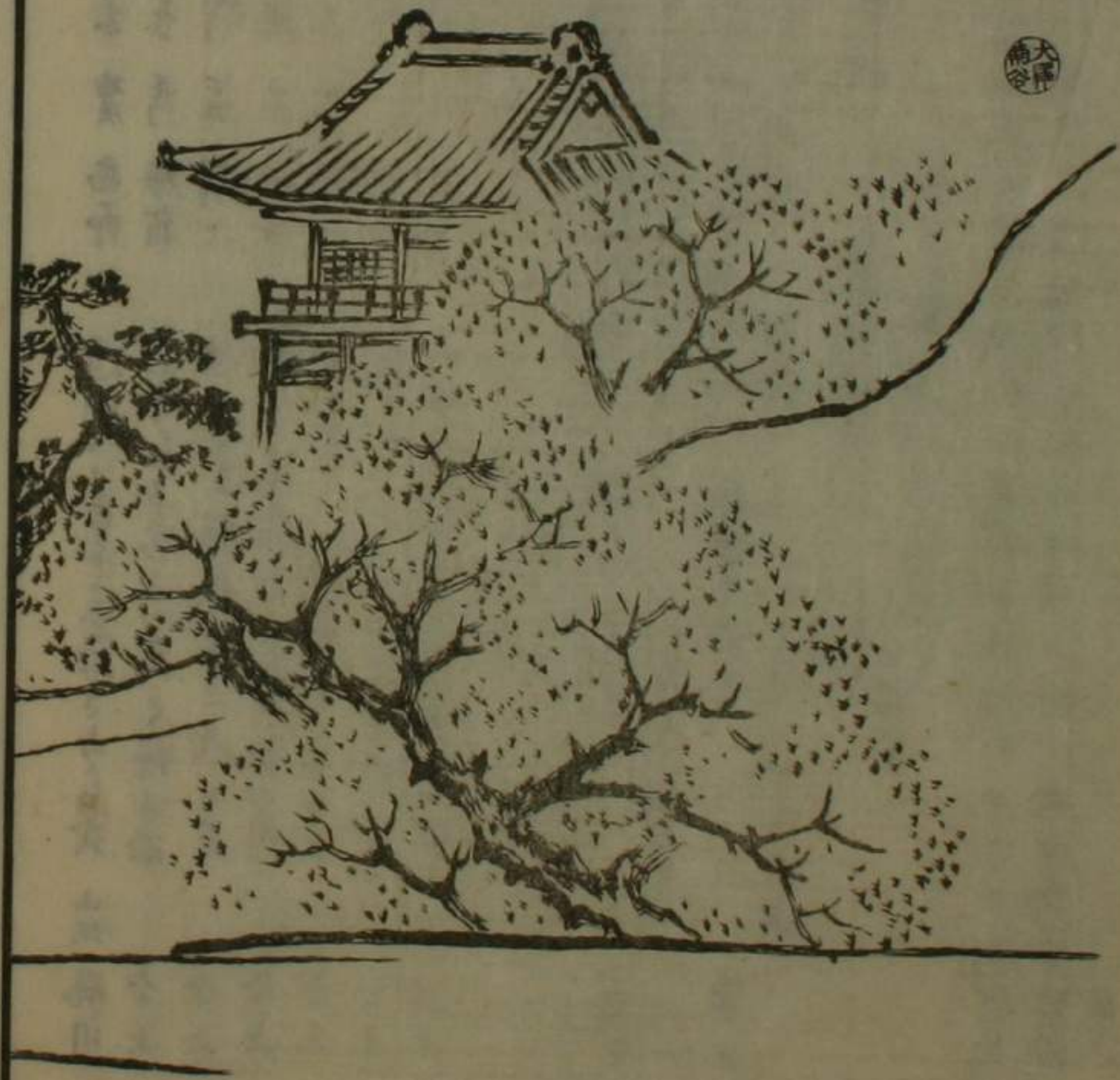
上野公園

春の夕

あつまる

比叡と

とめくれば



去より

ゆき

入玉の陸

東京 上杉齊憲

花木經營劫後園。遊觀公共
亦 皇恩。人心猶戀離虞績。東
照廟前香火繁。東京 三島中洲

無數彩霞新日曛。櫻花楊柳橋成
群。林園沁水香雲暖。長々鶯聲側
瓦聞。 今 令橋半木

夜色深沈風不動。禪房月白雲悠溶。
醜駒好使美人扶。花影滿身々覺重。
今 蒲生聚亭



東山白骨已成塵。無數紅羅粧。
點春君見。太平今有象。脫刀散
髮醉歸人。東京蒲生聚亭
艷雪嬌雲一望開。不看當日積
屍堆。落花如雨撲烏帽。尚想飛
九頭上來。依田學海
舊莊屬烏有。銅佛獨偷安。誰識
滄桑跡。前觀勝後觀。福田鳴鶯

たつね跡をそやめたのぬね 素永樹
七つねや山よふさる松のね 全 群雁
松のねも風ふく園や夕まら 全 素石
空をの枝よりさる松のね 全 上
山々の屋のまつりやをさる 全 完成
長らくさまもる待つ松のね 全 素石
ななる子の燐きこほけり隆供去 全 鯉友
るふまるとは跡の松のね 全 梅園
初ねやひと木てはまかりけり 全 千歌

結と女かまき茶かしのむつらや 田所子秋
人目志のふのをかかりけり 全 片山淳吉
とつらにの人もまをるふ 全 川壽千席
大和の松いままきりあり 全 阿部香正
大佛の舌を言ふあらしき 全 阿部香正
上座の舌と誇り起る 全 阿部香正
白雲と見えまかりけり 全 阿部香正
ふくの松木は松ひけり 全 阿部香正

千樹香雲相映鮮。釵光鞭影開塵肩。
淑臣來拜將軍廟。志又傾盃瓦土前。
櫻雲滿目競春榮。樹影模糊暮靄橫。
醉客忘歸斜日沒。落松堆裏聽鐘聲。
綺羅叢裡漲紅塵。多是賞花人醉春。
山上別存幽趣在。森々樹影寄吟身。全 上

群屨山中未起埃。清晨拾句我先來。
昨夜好雨真知節。輕向花唇濕一回。
東照廟松千歲鶴。天妃池水万年龜。
吉祥遮莫閣無趾。依舊吉氛祥氣滋。
那邊曩日大王宮。感慨屬私園屬公。
不惟炎威雖伏去。滿山猶逗古雄風。全 上

夢ふらまをりて世は 山崎 龍川
りうくととほのう 全 上
廣くとを 全 上
滯りて 全 上
赤雲の 全 上
上座から 全 上
斯も 全 上
舌と人 全 上

編者
満山谷木翠紅蓮。士女遊觀日
競先。記否東台古禪刹。色空禿
佐色粧天。全 上

萬櫻花下一望開。好逐春光舉酒杯。
歌妓幾群含笑去。文人數隊掃愁來。
玲瓏有影香羅界。淨潔無塵白玉臺。
歸路夕陽回首處。艷雲如錦蔽東台。編者

白雲も匂ひを帯てさうらを上座の春の暮りありけり 全 上
地變公園逐日昌。僧房酒店感滄桑。蹄輪南北聲來去。幼老東西影短長。
暖雪霏々香世界。嬌雲燦々水晶輝。天台在此何求遠。劉阮遊情樂未央。全 上

淡草觀音



上卷

源
林
三
十
一
印

七



古佛龕埋香火塵。釵光鬢影往來頻。
名園咫尺仙凡隔。去訪閑花有幾人。

東京
三島中洲

晨光照層塔。綠樹擁樓門。
遼矣圓通境。新成共樂園。
東京 福田鳴鶴

巍然寶閣似阿房。金碧彩光映
夕陽。梵唄花香極樂土。幾人祈
福往來忙。
上總 井上聚芳

よそりの小月のかき居る年の市 東京 永機
降りてよよ系まつまけり市の市 金羅
是れとの人よ家ありとの市の市 月彦
花小入て又一茶や年のいのち 吳仙
供らしき人も家ありとの市の市 宇山
豆もだぶつらぬ思ひやせいのち 笠山
ある夢を言ふてなごや年の市 美野安
新らしきおの匂いやとの市の市 梅園
手よあまる雪りのあつり手の市 松嶋
初小いしくぬ系高よ年のいのち 陀生
手よあたる雪を言ひんとの市の市 千取

注連繩よ夏草のあり手の市 正京 箱雄
妻のお山縁横くとの市の市

押合て夜涼くまたり年の市 梅宿
全上

涼風や母と兄弟る塔の上 藤斎
又けいりや人の泣きつりの市 世 春木

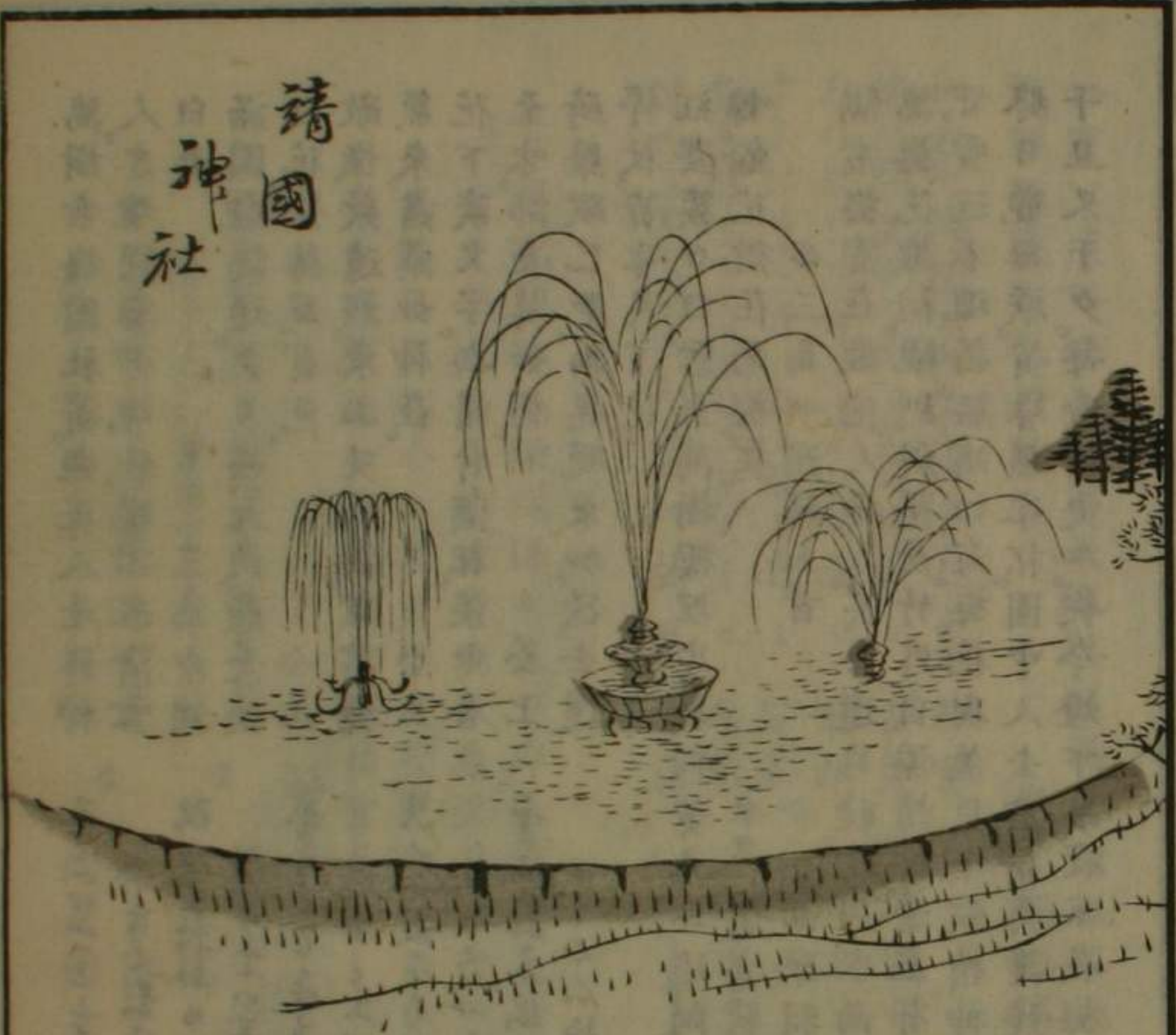
蕤々佛殿
與雷門結
構經年淺
草原多有
賽人祈擁
護毫無法
兩絕慈恩
劇場鐘鼓
歡聲沸遊
館杯樽醉
語誼誰識
淨池花影
暖天堂極
樂在斯園

編者

和光垂跡墨江濱。群賽恰如兒慕親。香火誦經僧守
夜杖鞋衢兩客凌晨。雲邊鴻雁隔凡界。花外鯨鐘吼
麗春。福利有無非所問。詣人終日四時新。
編者

注し
摩訶の
年の
喜の
いそ
きと
ん平
編者
そとなら香のうかりのよそよかて
摩訶寺れ人のゆりうら
全上
摩訶のまらりも
全上
そよや年の市
全上
指さるる系高の
うらやとの市の市
全上
涼風や我平
あつり人さるる
全上

靖國神社



身坐水邊林下
莊雪餘清景弄
初陽玲瓏一白
如無色中有芬
芬馥々香
東京小野湖山

陽の年子
匂ひ
梅
春の香の
消えて
まうけり
五木
片山徳吉

丙戌の故
寫於瘦栢
考名
陳石叟



東京植村龍山
名種爭栽靖國祠
好花唯恨後開時
若無彼岸魁他樹
九段春光一段遲

本へみふ
る
ふる壺の
梅の枝小
のふふと
葉のりぬる
浅見老風

萬樹素梅園社新。觀花人是拜神人。忠魂復與芳魂返。現出冰清雪白春。

東京 三島中洲

滿園香藹迷。夕日西天旻。最是淡紅花。依稀風有色。

全上

敵愾欽遺烈。東山又西海。煮蒿梅氣來。肅爾如神在。

全上

花下談文字。幽情付酒杯。淡中含至味。師表莫如梅。

全上

綺羅蹤已絕。幽趣晚來加。欲去還停杖。黃昏月下花。

全上

紅塵簇々白雲垂。萬樹櫻埋忠義祠。黃鳥却追閑處轉。餘花猶在老梅枝。

全上

隔市梅園在。觀花人接人。笑吾遺目睫。遠探水南春。

全上

萬梅花擁祠。觀到斜陽旻。竹外自添情。柳邊尤有色。

全上

冒雪返春魂。捐軀靖四海。梅花與蓋臣。千歲精神在。

全上

終日觀無厭。黃昏猶舉杯。園中人去盡。新月護殘梅。

全上

于旦又于夕。每看情更加。從今燈下夢。夜々在梅花。

全上

花のいふをよまきりし梅を
宮本守親

清國の梅
全上

人のその美惜人あままた
全上

春のさるるをよまきりし梅を
全上

梅の数をあつめし神梅の
全上

梅のさの白ひあらし
全上

梅のさの白ひあらし
全上

梅のさの白ひあらし
全上

梅のさの白ひあらし
全上

梅のさの白ひあらし
全上

竹憲茅屋伴幽人。偏喜玉肌無鬢髮。雪淺風平香霧散。寒梢近月最精神。

東京 森田福陽 催 東京 鱸 松塘

初るや梅様うらも其さごとく
静宜

梅一輪天中のまを空めけり
古竺

あけほのいそえに過て竹の梅
聴松

ささにも見直しなむ梅のさ
完代

さる限りまら梅白し夕星
午飯

連のまていさるや池の梅
箱雄

聞説殉難英傑魂。彈丸注下碎無痕。臣身一死餘奇節。君德萬秋垂洪恩。

言小孫きこむ
編者

為義為臣超今古。惟文惟武敵乾坤。巍々宮殿神如在。仰見凜然功業存。

白ひ小の園を
全上

梅のさの白ひあらし
全上

梅のさの白ひあらし
全上

梅のさの白ひあらし
全上

梅のさの白ひあらし
全上

梅のさの白ひあらし
全上



狐廟陰森樹影涼。好醫暑病祈良方。
一條飛瀑織於線。繫得遊人命脉長。

東京 三島中洲

梓さきとやつと房りし 紀涼の本 東京 梓雄

松さきとやつと房りし 紀涼の本 石丈

花ゆきとやつと房りし 紀涼の本 宇山

添息は生るゝ木の局ゝうねゝ 洋水

宵闇やひやくゝ 益多のふき松ゝ 聴松

清きふよる瀧さくさくありにけり 全上

初をやくふの氣てまて人あまゝ 吳仙

蕙然廟宇表威明。福利誰爭日月榮。數
級庭階人上下。一條縣瀑水縱橫。松聲
颯々和鈴韻。鳥語啾々慰客情。別有山
風可銷夏。透衣涼氣十分清。 編者

紀涼とよまらるゝ人毎々清瀧の
五子人の夢や 信めん

編者

編者

瀧のさき

けりて

ついで

まゝふ

のさき

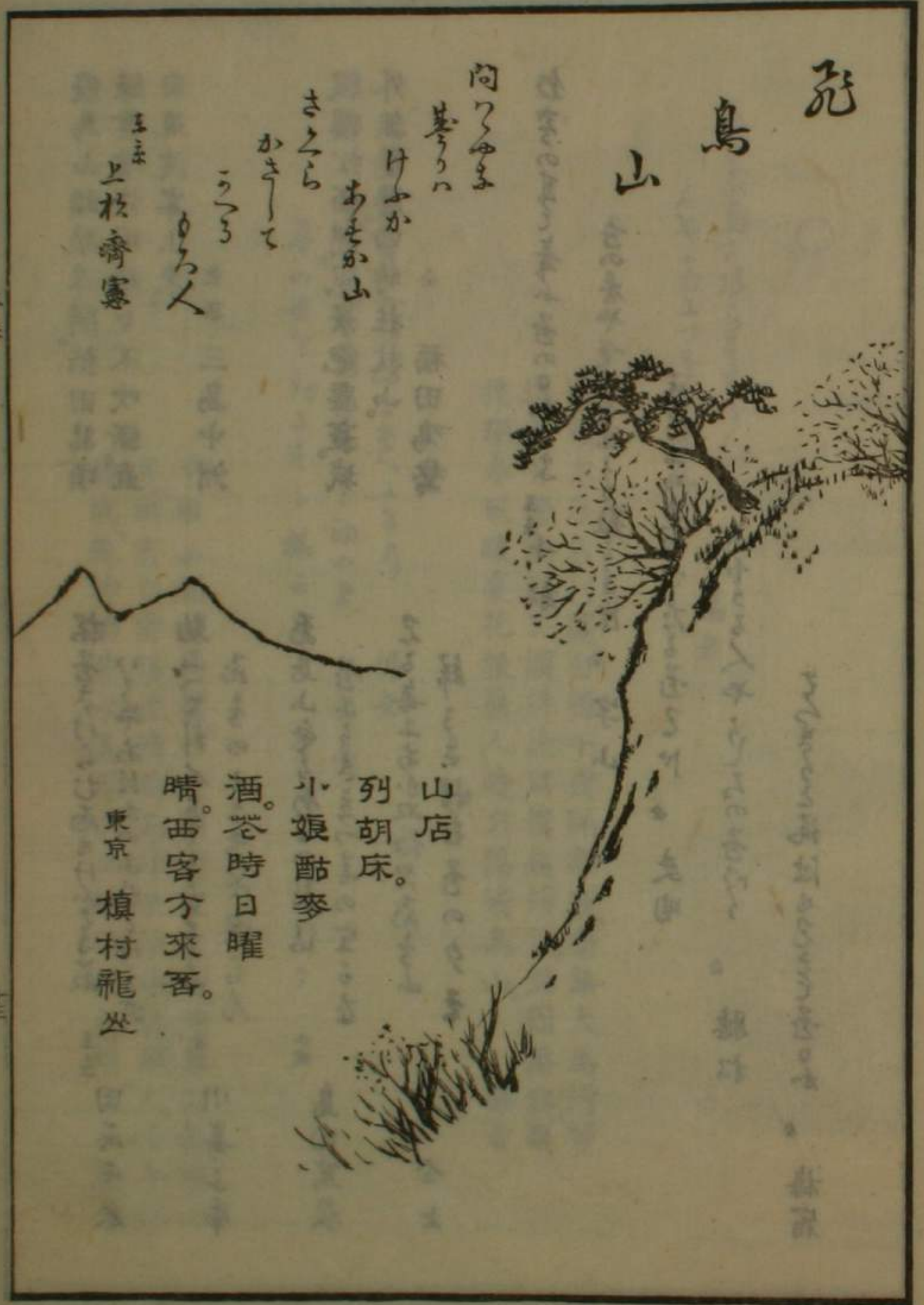
編者

涓々懸瀑一條流。盛夏生寒熱汗收。清興
無量人識否。不須乘鶴到揚州。 編者

まをさくゝをのりてつりのゆきさき

乃よとえせぬ非のたうぬ

全上



飛

鳥山

向つやま

基つり

けしか

あまか山

さくら

かさして

うら

おん人

上杉齋寧

山店

列胡床

小娘酌麥

酒。谷時日曜

晴。西客方來香。

東京 榎村龍坐

上卷

十三



丁酉八月
 雪寒紅雪
 阿山人
 阿山

飛鳥山頭眼界開。稻田萬頃
綠雲堆。快風續々不吹斷。直
自筑波峯上來。

東京 三島中洲

楓櫻松栢間。風景絕塵寰。城
外無雙勝。四時拄杖山。

全 福田鳴鶴

飛鳥の其て暮ふ日の如くふ 五三 千秋

舌の香や咲くも際より散るも際 全 宇山

戻りよる連のやたるをえど 全 史明

ふりくる人やうしろのそり 全 聴松

とつまうと花はもえそを口 全 梅宿

標をさけらむ雨もけふさき 五三 田所千秋

いくやあはれかの山路をけ 五三

駒ふてけんきり 全 川芳子席

飛鳥の山よ香や咲らん 全

飛鳥山をる朝日の影流て 山城 島田篤敬

香よりまきまきつきの空かな 全

えり毎よあかぬ梅やい 全 上

歸るさ惜む香の夕香 全

飛鳥山鳥は限らぬ 全 人

編者

遊曠忽忘名利關。白櫻千樹隔塵寰。毫無犬馬汚芳
選。更有管絃解笑顏。詩欲寫情頻俯仰。酒因添興幾
循環。春風暖裏花狼藉。人趁夕陽飛鳥山。 編者

花のそりよる情をさく 全 上

さくそりの為 全 上

夢の世をわたり 全 上

平坦山頭百樹櫻。四邊開潤望縱橫。偶無紅粉煩心
耳。時有白雲娛性情。飛鳥啼來佳曲熟。閑人吟去好
詩成。乾坤回首水晶界。夕日映時明更明。 編者

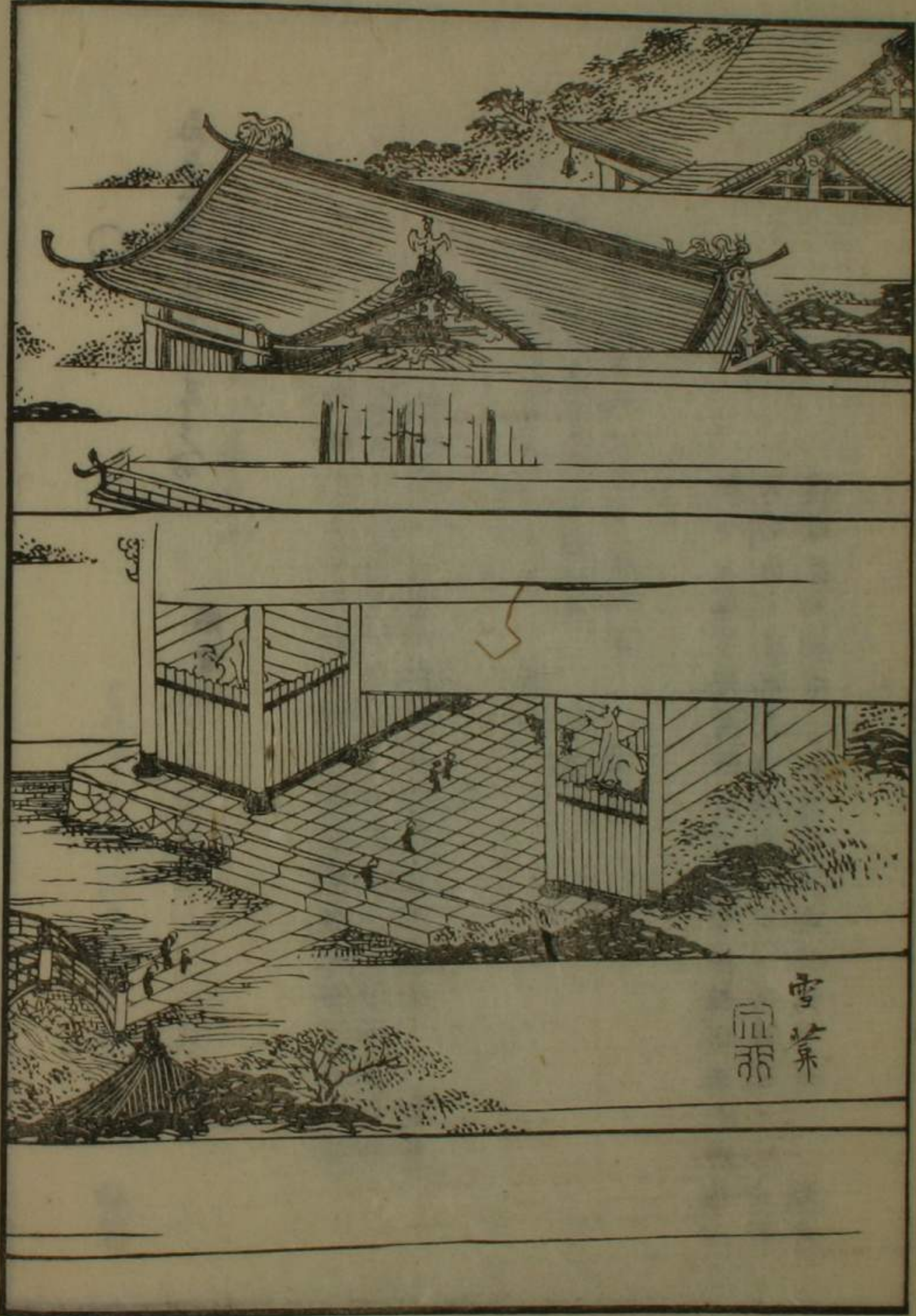
龜井戸管公社

紫雪成
 堆映碧
 池暮春例
 護古名祠臨
 風竊窈娛神意
 現出南溪卷畫奇
 東京 大沼枕山

上卷



十五



雪成
 龜井

滿架古藤花亂披。薰風香處夕陽遲。想公寵用立朝日。高戴我冠紫綬垂。
東京 三島中洲

巍々聖廟感威光。社上清風脉脉香。數朶梅花須慰意。人都是
在白雲鄉。
山城 安藤經次

藤花映玉池。龜井傍瑤輝。清世
寬平相。詞壇千載師。

東京 福田鳴鷺

あまうりある匂ひや梅のぬぼら丹 まま 吳佯
あらその影ちるふや 蘇の花 全 千取
梅よ月又照は梅らありうな 全 史密
室のあまうりふハぬく 林の花 全 知雪
花葉のほき梅ありあちの香 全 梅一
朝冷のひとあふ 蘇の花 全 聴松
藤花や踏鳴 たる太鼓橋 全 荻野女

うらまはる道おもし 柳屋 三五
龜戸ありのまの夕景 川壽子侍
龜井のぬまふんや 浪の香 山城 宮本安親
昔飾の龜井のぬを梅いと
あたまをともみ 葉つみけり
重りけて昔飾を葉あまうけり
龜井のぬまうけりそむく
百代もぬぬたけ 龜井のぬ
ぬの清さをほてあらう
龜井のぬまはらぬらむらん
庭ありうつる 蘇花の香

梅子の香は開くらあちの香 全 藤川
梅はいむくやあちの香 全 全上
蘇の香あまうけり 蘇まけり 全 全上
水に懸うつて梅ぬ蘇の花 全 全上
さねるの香あちまらうあちの香 全 全上
藤はら秋あふやうり蘇の香 全 全上

りのぬきさるりのありさの香 全 梅雄
たうらるるあちの香 蘇の花 全 梅雄
丘屋のぬき梅やあちの香 全 梅宿
かんさしの香あちの香 全 水原

梅子の香は開くらあちの香 全 藤川
梅はいむくやあちの香 全 全上
蘇の香あまうけり 蘇まけり 全 全上
水に懸うつて梅ぬ蘇の花 全 全上
さねるの香あちまらうあちの香 全 全上
藤はら秋あふやうり蘇の香 全 全上

蘇世の仰く龜戸の蘇の香

あちの色の清くもあちの香

編者

鼎徳由來日月明。浮雲散盡九天晴。詩如子美鏡金
玉。文與退之爭弟兄。錯節蟠根知利器。精忠直道顯
榮名。請看龜井古祠下。觀郁梅花幾樹清。
編者

つらなるは伸るまあり蘇の香 編者
蘇花の香あちの香 全上

文詩自在卷雲烟。不讓昌黎與樂天。積羽沈舟真定
理。群莖折軸亦當然。謫居蕭瑟君休悼。愜氣清明世
仰賢。謔毀何妨小人語。昭々神德幾千年。
編者



八州歸一望雲樹帶藤蘿 東京 福田鳴鶴
英士幽棲蹟長傳一首歌

襟あけくたこそみづれ山の隈 小坂 宮本守勲
衣まきと若る世の夢 うらや

色く小石の愛まきと若むの 全上
ありまとい山の家と

むし
遊や
月子

名もなき世に跡をくたむぬきと 全上
長せきまて世の夢 うらや

陰らぬ

堅きりの八破るおひと若く世の 全上
山も若うて今も愛ふは

釣とくろ

西条 箱雄

武蔵聖ふたのたうりき徳の絶え 全上
細き世の音愛らまうりけり

むし

遊や

月子

とむ

月の影

とむ 聚芳

速退けの衣は後ろに梅 全上 梅園
風筋の言で耳をむと世の夢 全上 千敵
むときた本立めあてふ花やうそ 全上 枯年

若くも藤の若くは若く 全上 幹雄
脈やか小つて海やむしの夢 全上 竹史
物くや星も若くは若く 全上 吳仙
世の音は鳴け一壁く 全上

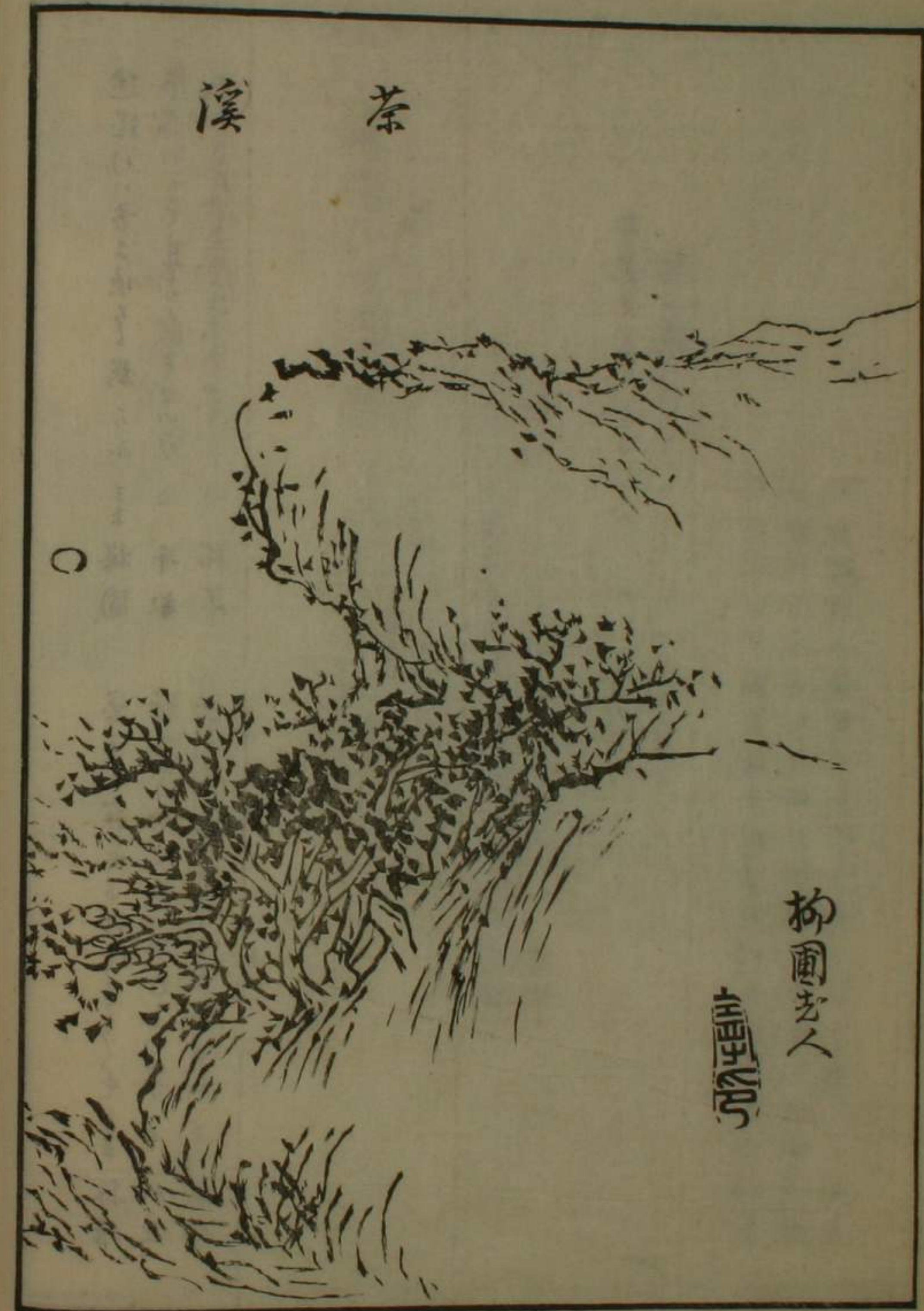
所粘せー若の藤や結るらん 編者
磨の尾のさの於ての夢

當日英雄萬世標。來遊憶起跡迢々。忠誠 編者
凜爾貫千歲。名與此山長不消。

月夜はあらはまきの 編者
衣は結ふ服をさき 全上

死生成敗付蒼天。閑左俊豪誰比肩。破敵偉功輝昔 編者
日。築城奇跡震當年。暗君迷讒軍終敗。明士吞冤國
不全。道灌山頭來甲古。芳名凜々至今傳。

茶 溪



柳圃主人

柳圃主人印

船の
うらみ

この色

のみつ

え液せは

うらみ

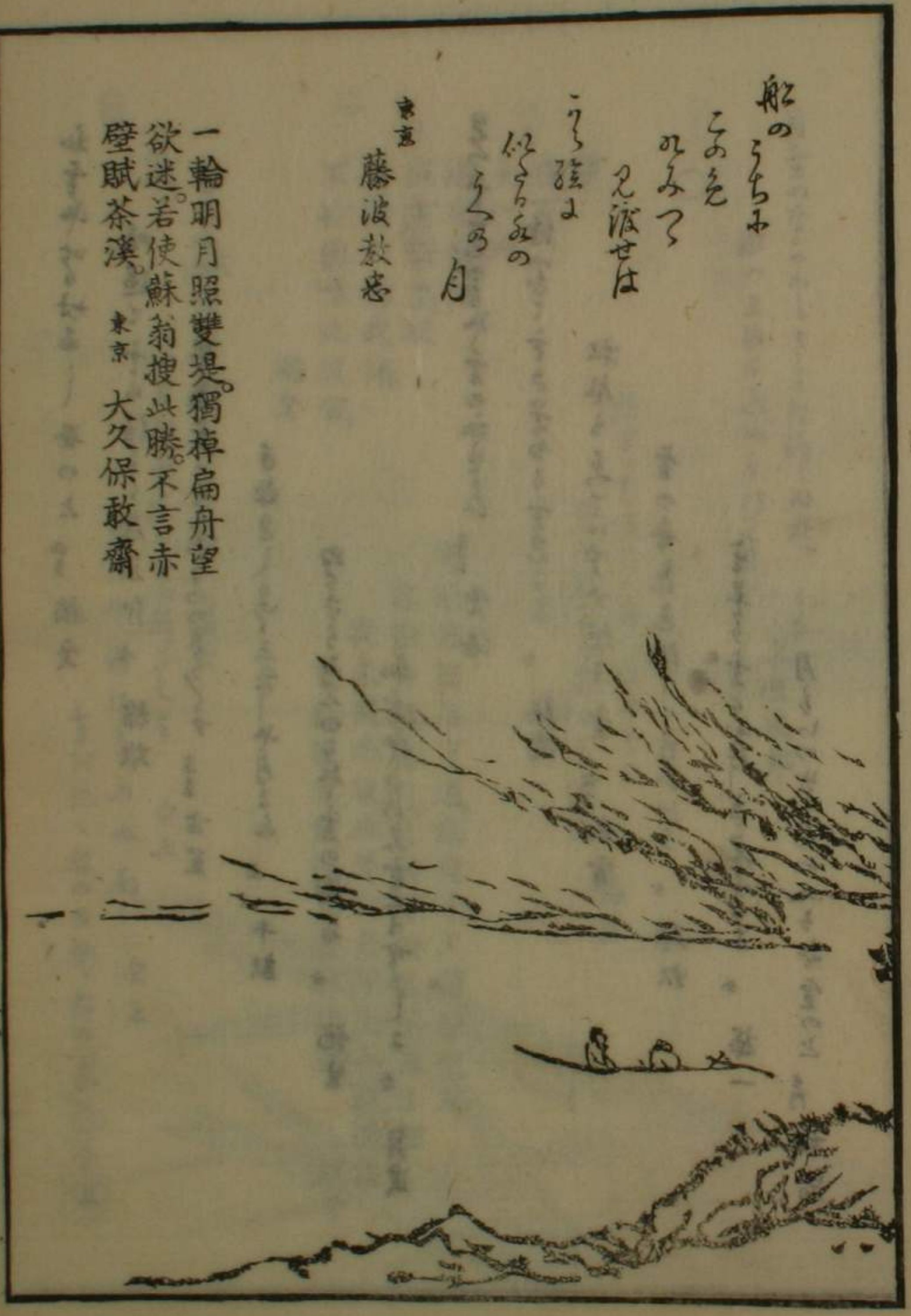
似るもの

うらみ

月

藤波教忠

一輪明月照雙堤。獨棹扁舟望
欲迷。若使蘇翁搜此勝。不言赤
壁賦茶溪。
東京 大久保教齋



上卷

十九

初雪や吹雪の村あり世の上 西条 稿

晴過て雪も待たず月見 稿

霽雪光一もひらつてのまじり 古堂

手離きしりのまじりや月と 千叙

ぬくさうはるゆるや雪の國 化生

初雪やさのみ雪ともせうし 月度

生るる雪もゆるや雪の初 愛海

降つて雪もゆるや雪の初 梅園

松風もあつたはずす 如雪

雪の舟気色仍て 聴松

雪もゆるや雪の初 梅一

月もいつていつる 梅宿

月雪のなごりも 水原史郎

○

絶句 編者

崖百

丈一川

通。緑樹陰

成。畫鬱葱。明

月清風高我伴。

不妨興味比坡公。

編者

奇絶溪流目下通。懸崖千尺巖葱中。風

涼影白駿臺。月夜靜聲澄若水。蟲。赤壁

從來閑地設。桃源自是係天工。清遊復

有蘇家客。載酒高歌棹短篷。 編者

月さかせのさあ 編者

四月や雪退く 全上

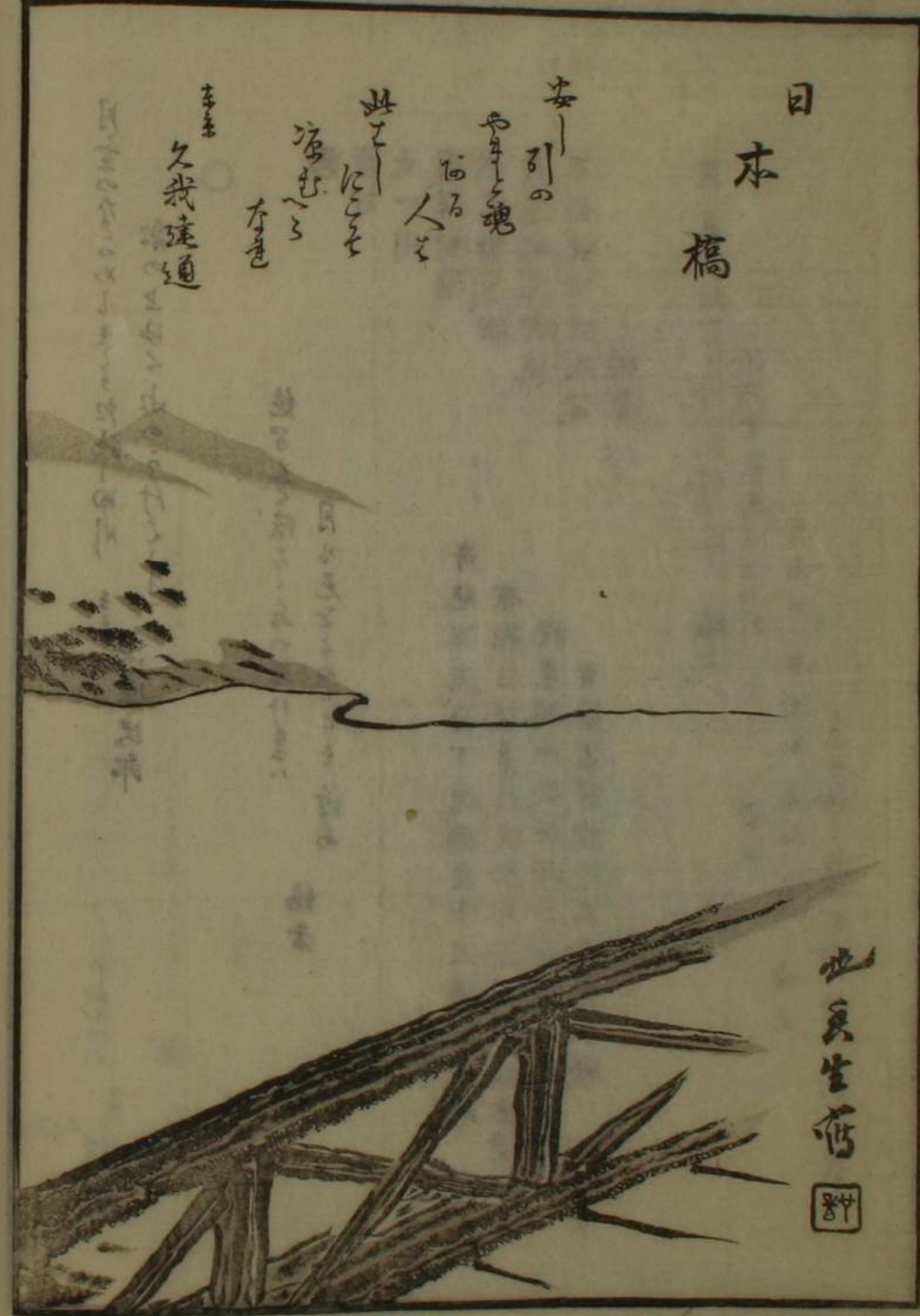
名月や 全上

雪阿抱く 全上



烟霞銷盡月添
明。不厭看平坐
五更。皓彩高低
樓閣靜。滿街夜
色不堪清。
東京橫村龍山

日本橋



安引の
舟と魂
ある
人々
此の
にこそ
深むら
有る
幸々
久我遠通

世良生所
印

日本橋頭市。百千三尺廬。開場
纏食頃。賣了萬籃魚。

東京 福田鳴鷺

日本橋邊夜景新。炎塵洗得養
吟神。家々華燭明於晝。幾隊歡
娛壽域民。山城 安藤經次

日本橋頭西又東。幾千遊客銀
燈中。午炎洗盡長江水。更好清
涼萬斛風。全 渚 方舟

艇子滿川華燭新。衢街樓上亦
遊人。如斯歡樂快哉興。盡是恩
波奉戴民。全 木村瓶川

さしのはらばの本橋の釣市小 手ま 川岸ふ岸

口の本橋のわたりとは橋谷 山岸 宮不守記

妻沾ふの夢とさきも照る落る 全上

口の本橋といふ水たきまき 全上

り通不絶るもあらはて晴ふ 全上

大所代の流ひのけき橋の上 全上

流きてはあきとあき 全上

月涼 全上

あるふきふき 全上

空恒一 月澄渡る水のし 全上

去年 全上

四月 全上

ある晴起るとあり 全上

為由金鐵鏤彫工。今古名橋冠日東。八道商人留去
外。五洲驛客往來中。潮波撲岸龍形閃。車馬捲塵雷
響通。好倚欄干望富嶽。夕陽紅處 帝城崇。 編者

名月 全上

名月 全上

七百之夕日
高僧生面
西門



芝
公
園

三綠山下路一
綫蘇痕通舊刹
餘金碧佳城自
鬱葱老臣雙白
鬢芳樹幾春風
往事憑誰問低
回落日中
東京向山黃村



上卷

三

崔嵬安國殿。縹緲辨天宮。社樹千尋綠。池魚一尺紅。塔高鈴自語。橋斷路纔通。花下寄幽賞。小詩何必工。

東京 向山黃村

安房の山

あつた

ええ

竹笠の

こらに

かそむ

まの

夕庭

倦息らてうしろをりや夕裾 まま 塵外

敷る時ハ一ひらつてやハを裾 ま 呂仙

漣も寄せぬるまきやを重 ま 藤高

又流やや松を歌まの ま 腰松

そたを折る気ふも酒の碎 ま 稻雲

旅あつら通り合もやおさくら ま 山母 壽松

捲らぬの響ふちるや夕さくら ま 小原

萬

香歸

桑海。松明

仰廟光。依然

安國殿。參拜掬餘

香。東京 福田鳴鶯

話人つとよとこらと竹笠の

こらなくあまの園のこらこら

編者

竹笠の所園の様さきよけり

たゞ自そと思ふてかりふ

全上

花月朗然無盡藏。誰知古寺占風光。旗亭炙肉遊懷煖。僧舍煮茶清趣長。地近京城添夜興。客求詩酒踏春芳。滿園深樹茂林裏。金殿玉樓輝夕陽。

編者

あまのこらとかりり竹笠の 編者

舌星やあまのほせの一星 全上

こらぬわく岩まきもあまの 全上

全上

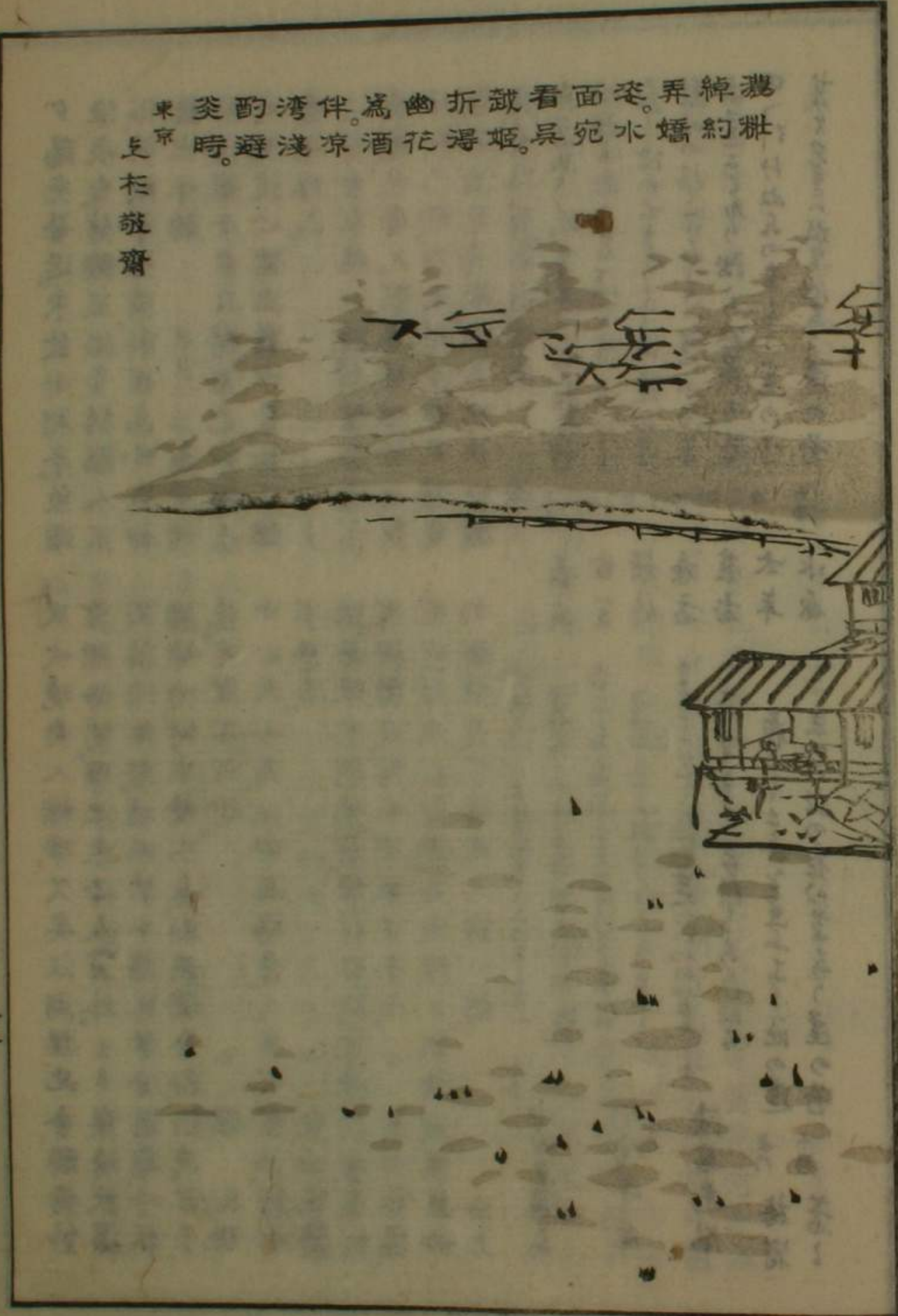
不忍池

晴翠



糝約嬌水宛吳。看取折幽。為伴淺涼。酌時。炎酌灣伴。為幽折。看取。面姿弄綽。濕

東
上
本
敬
齋



上卷

廿五

三圍
神社

溪雲山雨滿
樓風想見唐
人詩句工爽
籟忽吹塵夢
去置吾水墨
畫圖中。
東京
向山黃村

出
章
三圍
神社



全修月夜

夕立の

跡あり

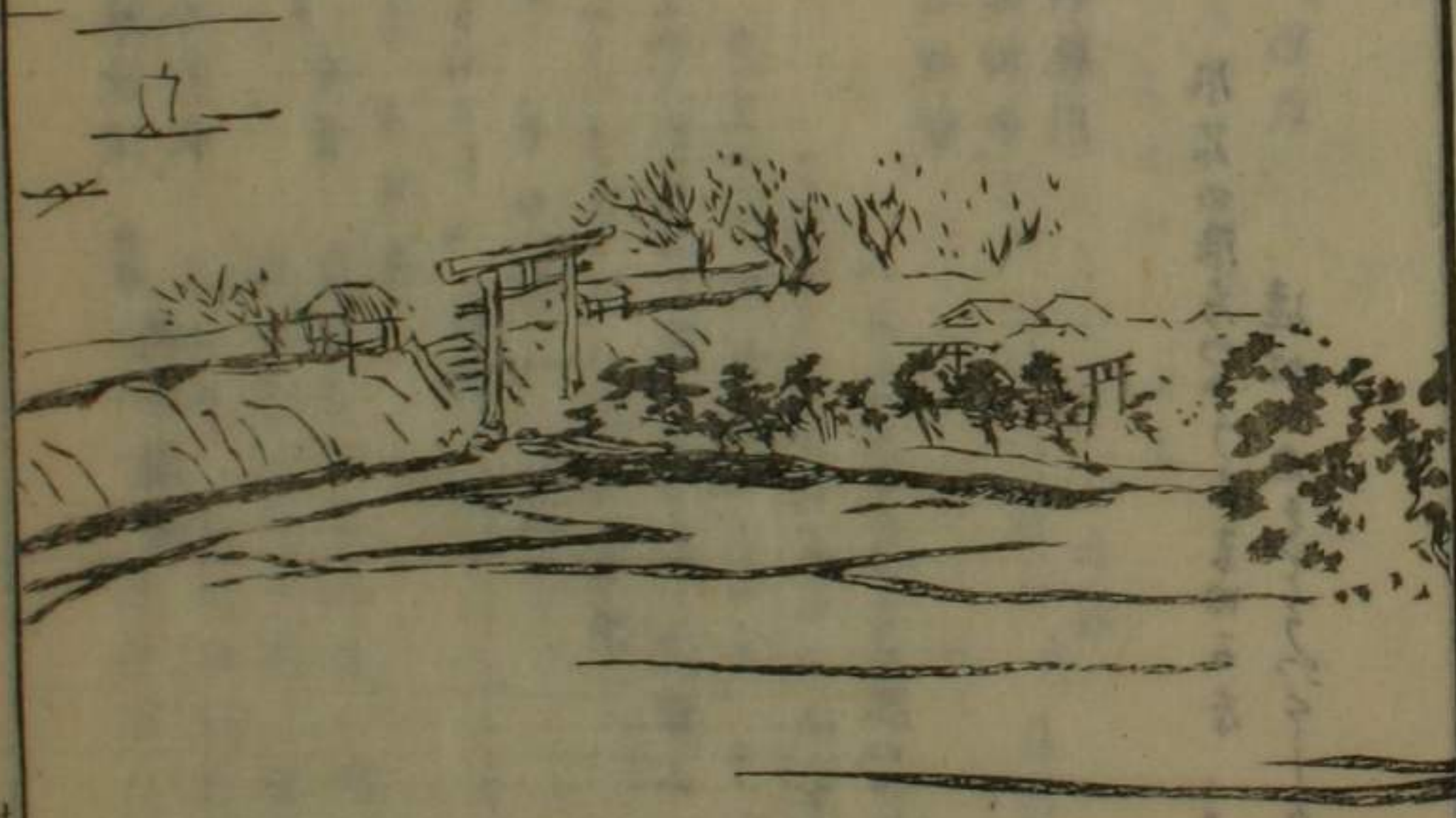
軒の采に

名跡

とめて

浅見光風

華表墨堤沈。舊題
晉氏吟。三巡相拜
處。風靜落花深。
東京 福田鳴鶯



雷聲忽止雨痕收。修竹當軒翠欲流。東京
此夜炎蒸何處去。胡床風露冷於秋。朝井圖南

予報のわらきに我く言田の秋 音宜
異多て夕立又も和ひと去きり 今月書

潮部詠きたらこの言田らふ 今月書

白磬の老ても名一青田南 今月書

夕立子けふりの言る十里の春 今梅園

夕立やあそらく絶し穢の夜 今字山

夕立の言押掛る端山 今乙羅

つらら屋や夕立の露の小酒華 今梅一

つらら屋や夕立の露の小酒華 今藤松

神威翳瑞雨濛々。村落諸民喜歲豊。
簑笠連行如雁字。聲々歌發綠田中。
山城 木村瓶川

風名の浪たつやふ言田らふ 今梅川
遠紅の兄をそとくくく夕立晴 今水原

存る亦ふ言をえわ夕立言 今梅園
夕立ある如右を傳ふ夕立 今上

乙訓りの名も彩母言田 今井我

夕立あま言屋や言田 今梅宿

夕立や村名初 今梅宿

夕立や三圍 今梅宿

昔らと言やあり夕立晴 今梅宿

夕立や四五 今梅宿

夕立 今梅宿

夕立 今梅宿

夕立 今梅宿

夕立 今梅宿

夕立 今梅宿

翁鬱松林墨水傍。三圍古廟發輝光。鏘鏘
鏘鏘韻清雙耳。簇々櫻雲掩一塘。景縮
乾坤透入眼。地環田圃別成鄉。禱神晉
氏留功迹。十歲長傳白雨章。
今上



南子

愛宕山

社頭樹靜掛水輪。夜色清澄眼界新。皓彩鋪
 來千萬戶。不知紫陌有紅塵。東京 榎村龍山
 朝來飛雪滿城頭。忽喜彤雲向晚收。禁苑千
 林銀鏤樹。市街萬井玉裝樓。黑邊唯認歸鴉
 點。白裡難分宿鷺留。寒日已沈猶未暗。遙空
 蓮岳照吟眸。
 全上

人未付き 蒼ふつと 愛宕山

空好らこるも 旅ひにけり

五系

佐藤 誠

石階
幾千級
鐵鎖辨躋
攀品海清如
鏡白帆飛望間。
東京 福田鳴鷺

衝寒上愛宕
山巔耐喜靈
晴眺望鮮箇
々火船蒸氣
焰散成萬里
海天煙。
山城
島田篤敬

和歌やひとく様の家と松 縮松
石壇を敷くて臺も月又のね 山崎 壽松
言伝のあつたつて一重の山 水原
月乙衆子道向りくや松葉捨 大坂 南敷
昔もこの多きとくあらはるの空 鳥取 羽海
そのうちちかひさは山の和歌 下野 若

社畔移棚涼味迎。滿丘風露不堪清。愛看月
出東山上。品海連臺砲影橫。 西京 李家松堂

和歌やたけは是れとを 完
傳なつかし 松宿
和歌やたけは是れとを 松宿

和歌や解た手際もあふ 等哉

防ぐる外のけしきや山の雪 月亮

手鹿の上は月又の月 雪分

やかし澄む月も 照平

名月の澄いりより 桂花

雪積むや 康高

月乙
山 香岩の
男坂 けり
女坂 人の

豈料芝街有此山。衝雲石燈茶難攀。幽
閑偏似神仙窟。奇峻且疑函谷関。碧海
茫茫落吟眼。靈祠盡々隔凡寰。房總接
水山光遠。米舶英船出沒間。 編者

善也越も一月ま 全上
枝ま 全上

泉岳寺

萬松山閣淨泉岳

寺門涼。藜藿殘

苔石。處墳百

五香。

東京

福田鳴鷺

泉岳寺
墓所
味高

味高



日一松大工も石たつきりくそ 東京 昇哉
岸一ハハムナキ 秋の風 長五
すくん 秋の風 月夜
茶ハ皆 秋の風 月夜
以 秋の風 月夜
風 秋の風 月夜
秋 秋の風 月夜
か 秋の風 月夜
秋 秋の風 月夜

庭 秋の風 月夜
柄 秋の風 月夜
能 秋の風 月夜
あ 秋の風 月夜
か 秋の風 月夜
す 秋の風 月夜
あ 秋の風 月夜

功名千歳表忠誠。一炷香烟懷舊情。
嘆賞東都泉岳寺。蟲聲切々墓邊鳴。
暑退新涼次第催。吟神亦是果佳哉。
黃昏一段清風爽。四壁蟲聲逼意來。

寺 秋の風 月夜
か 秋の風 月夜
は 秋の風 月夜
あ 秋の風 月夜
か 秋の風 月夜
す 秋の風 月夜
あ 秋の風 月夜

遺墳累々古林丘。便把香花淚不收。君
 辱臣窮無道守。國亡民散欲誰由。臨機
 應變出新策。沐雨櫛風斬舊仇。四十七
 人如一士。誠忠義烈貫千秋。 編者

腹
 まり
 今ル

編者

浮世盛衰魂益驚。林丘刺見舊墳塋。忠
 心翼々強如弱。義氣堂々死似生。隴樹
 衝雲無淺景。寺門臨海有深清。誰拈香
 火來相弔。絕世英雄磊落情。 全上

秋
 の
 編者

東京名勝畫詞上卷終

